

## そんなつもりじゃなかった～青少年を使い捨てにする闇バイト～

特殊詐欺は、被害者やその家族に深い傷を与え、その人生を台無しにする許しがたい犯罪です。今回は、特殊詐欺につながり、社会問題となっている青少年の「闇バイト」についてお伝えします。

「闇バイト」は、単なるアルバイトではなく犯罪です。犯行グループが犯罪の実行役を募集するものであり、青少年は都合のよい切り捨て要員です。たった一度でも手を染めれば必ず検挙され、自らの人生も狂わされてしまいます。



なぜ普通の青少年が、犯罪に加担してしまう「闇バイト」をしてしまうのでしょうか。

続きは 2・3 ページへ



### 「冷暖自知」

屋代小学校区 少年補導委員

本年度から少年補導委員の愛称が「ちくま青パト隊」となりました。地域を青パトに乗って巡回していると

「あつ、青パトだ。」

と言いつつ大きく手を振ってくれる子どもが増えてきました。青パト隊の活動の認知度が少しずつ上がってきています。

さて、島崎藤村は「学んで得る智」「人と交わって得る智」そして「みずからの体験によって得る智」を「三智」と言い、大切にしました。

低学年のみなさんには少し難しいかもしれませんが、禅語の「冷暖自知」という言葉を紹介します。

大工さんや料理人で一流になった人の多くは、親方に手とり足とり丁寧に仕事を教えてもらったのではなく、親方の働いている様子を見ながら、自分でいろいろ工夫してやってみて、体で仕事を覚えたそうです。いい意味で「仕事を盗む」といった言葉さえあります。

水が冷たいか温かいが、そんなことは人から

「ああだ こうだ」と聞くより自分で触ってみればすぐに分かります。「冷暖自知」の語源はここに

にあります。いろいろ考えることも大切ですが自ら工夫しながら体験することで得る「智」が



たくさんあり、それがとても大事です。ゲームの中の闘いは「痛み」も「罪悪感」もなく相手を倒すと「爽快感」さえあります。リセットすれば、何事も無かったようにキャラクターは復活して、また闘いが繰り返されます。

実際の戦争や災害に遭遇した人々の寒さ・痛み・苦しみに思いを馳せてみませんか。

第3日曜日は家族ふれあう「家庭の日」 増やそう会話、つくろう思い出！

— 悩みごと抱えず、気持ちを伝えよう —

# 闇バイトに応募してしまうきっかけは？

「遊ぶ金が欲しい。」と思っている青少年が、自ら「高額報酬」「闇バイト」などと検索し、「簡単に稼げる仕事」として闇バイトに応募するのが発端です。他に、先輩や知人から誘われることもあります。

応募が完了すると、犯行グループから連絡が入り、犯罪が始まることとなります。「1回だけなら大丈夫。」「いやになったらやめればいい。」そんな安易な考えで始めた闇バイトは、取り返しのつかない結果を招いてしまうこととなります。



# なぜ、1回だけではやめられなくなってしまうのか

「闇バイト」に応募すると、犯行グループから連絡が入ります。アルバイトの登録情報として必要だと言われ、写真、身分証明書、住民票、家族の名前や勤務先、銀行の口座番号などの個人情報を、言われるがままに送ってしまうのです。



もし、このアルバイトが詐欺などの犯罪であると気が付き、やめたいと思ったとしても、この個人情報をもとに脅かされ、やめることができなくなります。

何度も犯罪行為をやらされ、報酬も得られず、逮捕されるまで使われ、逮捕されれば見捨てられるだけ。安易な気持ちで始めた「闇バイト」は、本人や家族、そして被害者やその家族にも一生消えない傷を与えることになってしまいます。

# 都合のよいただの部品

特殊詐欺の犯行組織は、完全な分業制です。組織の上役は安全な場所で利益を吸い取り、現金の受け取りや口座からの引き出しを行う「受け子」「出し子」などは、一番警察に捕まる可能性のある危険な役割をしてくれる、都合のよいただの部品です。検挙された青少年はこの「受け子」「出し子」で8割を占めています。そのうち、中高生は3割もあり、2人に1人は少年院へ送致されています。

## 検挙された少年たちの声

- ・犯行グループから脅かされて、抜け出せなかった。後悔しかない。
- ・捕まってしまったことで家族にも迷惑をかけてしまった。
- ・「受け子」を紹介してくるやつは、「お前が一番かわいい後輩。」「お前しかいない。」「めっちゃ稼げる。」などと言葉巧みに持ち上げてくる。しかし裏ではパシリのようにしか思われていないのが現実。

# どうしたら犯罪への加担を防げるか

家族、学校関係者など青少年の周りの大人ができることはどんなことでしょうか。ここまで記してきた「闇バイト」募集の実態、危険性、悪質性について具体的に伝え続けることが大切です。検挙された後の悲惨な現実についてしっかりと教えることも必要でしょう。また、お金は、「ものを受け取るだけ」といった簡単なことで手に入るものではないことは、小さいころから教えていきたいものです。

もし、応募してしまった、やめたいのにやめられないといった事態になった場合は、勇気を出して警察や警察が設置しているヤングテレホン(026-232-4970)などに相談しましょう。反省し、更生することで明るく幸せな将来をまた、取り戻すことができるはずですよ。



青少年がこのような犯罪に手を染めないように、家庭、学校、地域で見守り、指導していきましょう。

## 少年補導委員(ちくま青パト隊)任期が終わります

3月31日をもって、令和4年度・5年度と2年間活動していただいた少年補導委員の任期が終了します。子どもたちとのあいさつや、下校の見守り、公園などでの声かけや安全点検、店舗での青少年の健全育成への協力をお願いなど、様々な活動に前向きに取り組んでいただきました。

ちくま青パト隊の経験を活かし、これからも子どもたちを温かく見守ってくださることでしょ。



ありがとうございます  
ございました。

☆千曲市ホームページでも情報を公開しています☆

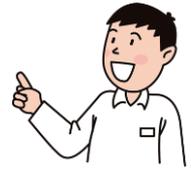
千曲市→組織から探す→生涯学習課→安全・安心→防犯・安全を開く  
育成センターだよりを掲載しています

青少年育成事業(3)で、**明るい家庭づくりの情報**を月ごとにお届けしています





# ～わたしのゆめ～



千曲市で学び、育っている子ども達が、どんな夢をもち、どのよう  
に立ち向かっていこうとしているかを紹介합니다。

## 「プロゴルファー」

治田小学校 6年 太子 羽芽

私の将来の夢は、「プロゴルファー」です。なぜかという、お父さんがゴルフが得意だったので、それを小さい時から見ていて、ゴルフをやってみたいと思ったからです。

ゴルフは、二歳の頃から始めて、たくさんの練習をしてきました。ゴルフをやっている時は、すごく楽しいです。私は、勉強よりも運動のほうが得意なので、スポーツは好きです。ゴルフの練習もこれからたくさんやりたいと思っていたのですが、小さい頃からずっと通っていたゴルフ練習場が、昨年10月でやめてしまったので、悲しかったです。しかし、今度からの練習は本格的に、ゴルフ場でやろうと思っています。プロゴルファーになって、見ている人を笑顔にするのが私の夢です。

## 「ぼくの将来の夢について」

更級小学校 6年 宮坂 颯一

ぼくの将来の夢は、新幹線の運転士になることです。

ぼくは新幹線が大好きです。ぼくが初めて新幹線に乗ったのは、小学2年生の時でした。スピードがとても速く、景色の移り変わるのを見て、「かっこいいな。」と感じました。修学旅行で行った「キッザニア東京」では、運転士の職業体験をしました。駅の停止線でぴったり止まるように操作するところが難しかったです。運転士になるためには、新幹線についていろいろ勉強しなければならないと感じました。

夢の達成のために、ぼくはこれからも学校の勉強をがんばりたいです。そして、体力も必要になると思うので、運動もがんばっていききたいです。

## 「私の夢について」

戸倉小学校 6年 田島 悠希

私の将来の夢は、「プログラマー」です。私は、「スクラッチ」というアプリで初めてゲームを作ってみて少し遊んでみたら、思った以上に面白かったので、プログラミングに興味をもちました。友達にも遊んでもらったら、とても楽しんで遊んでくれました。「プログラミングでクラスみんなの役に立つものを作りたい」と思ったことが、夢をもつきっかけです。

今では、クラスの給食当番決め、グループ決めなどのアプリを作っています！目標を達成するために、これからもたくさんみんなの役に立つものを作って、将来はプログラマーになりたいです。

## 「夢を目指して」

更埴西中学校 2年 中村 心春

私の将来の夢は「美容師になること」です。私は、ずっと通っている美容院があります。その美容師さんは、カットがうまいのはもちろん、カットの後に素敵なアレンジをしてくれます。簡単に出来そうなのに自分でやると難しく、自分でも出来るようになりたいと思いました。また、今年の職場体験で、その美容院にお世話になることができました。1日目は初めての体験ばかりで疲れ果ててしまいました。少しずつ慣れてきて、美容師さんの仕事の様子を見ていると、一人ひとりのお客さんに丁寧に、仕事も手早く、格好良かったです。

あこがれの美容師さんに近づけるように必要なことは何かを学び、夢を目指してがんばりたいです。